

平成 28 年度 「スラブ・ユーラシア地域（旧ソ連・東欧）を中心とした総合的研究」に関わる「共同利用型」の個人による研究 研究報告書

平成 29 年 5 月 31 日現在

研究課題名	戦間期パリの亡命ロシアと亡命ポーランドの関係について	
申請者	氏名	所属機関・職
	小椋 彩	東洋大学文学部日本文学文化学科・助教

研究成果の概要

筆者は今回の研究滞在中、(1) 亡命ロシアと亡命ポーランドのパリにおける交流について、(2) 両コミュニティに通じた亡命ロシア人ドミートリイ・フィロソフと、彼がワルシャワに組織した亡命ロシア文学サークルについて、北大図書館、スラ研図書室を中心に、資料収集と分析を行った。またその過程で、(3) 亡命ロシア人作家レフ・ゴモリツキイ（レオン・ゴモリツキ）関連資料も入手し、現在分析を進めている。ペテルブルグに生まれロシア語で創作を始めたゴモリツキイは、のちにゴモリツキとしてポーランド語で執筆、文芸批評を行っており、ロシアとポーランド両国のディアスポラの影響関係を明らかにする格好の研究素材である。

パリの亡命ロシアに関してはすでに厚い研究の蓄積があるが、戦間期パリにおける「亡命ロシア」と「亡命ポーランド」の人的交流や文化的影響関係については未解明の点が多い。一方、ポーランドの亡命ロシアについては、これまで研究者の注意を惹くことはあまりなかった。しかし近年のディアスポラ研究のテーマの多様化や、データベースの整備に伴い、従来の一国（一都市）に専心したディアスポラ研究のみならず、ディアスポラ間の交流の調査・分析が可能かつ必須となっており、この観点から行った今回の研究が、亡命ロシア研究に新味ある成果をもたらすものと考えている。

滞在期間中、北大およびセンターの豊富な資料を自由に閲覧することができ、またセンター内外の研究者との貴重な情報交換の場を得られた。こうした機会を与えてくださったセンター、および様々な点からサポートしてくださったスタッフの方々に心より感謝申し上げます。

主な発表論文等（雑誌論文、学会発表、図書 等）

当該研究活動を基に応募中の研究プロジェクト（科研費等）

（採択中）戦間期ポーランドの亡命ロシアに関する研究（基盤研究 C：15K02407）

※枠を調整することは構いませんが、ページは追加しないでください。